

2010 年度中国語学研修報告

渡辺武秀[†]

A report on Summer Chinese Study in Shenyang University of technology in 2010

Takehide WATANABE[†]

ABSTRACT

The fifth Summer Chinese Study Program for the students of Hachinohe Institute of Technology was held in Shenyang University of technology, China. Seven students joined this program, making good progress in Chinese, and understood Chinese culture to some extent too.

Key Words: shenyang University of technology, Chinese, Chinese

キーワード: 瀋陽工業大学, 中国語, 中国文化

1. はじめに

2010 年度の中国語学研修は、学生 7 名（内八戸大学の学生 1 名）の参加を得て実施することができた。この報告を行いたい。ただ、中国語学研修そのものについての報告は、すでに、この紙面で何度か行ったことがある（注 1）ので、これまでの報告と重なる内容はできるだけ避けたいと考えている。

前回の実施が 2006 年で、第 4 回目だったので、今回は、それから 4 年ぶり、第 5 回目の研修となる。中国での語学研修は、毎回思うのだが、日中間の様々な状況の変化に左右される。例えば、昨年は豚インフルエンザの流行により早々に中止を決定せざるを得なかった。その前の年は日本で販売された中国製の餃子に農薬が混入されていたという事件が起こり、この件が、様々な

メディアで取り上げられたこともあって、研修に参加したいという学生が定員に満たず中止するしかなかった。

今年も尖閣諸島の問題が起こり、またメディアがこれを一斉に取り上げた。ただし、この件は幸いに今回の語学研修の後であった。

2. 募集

募集人数を 12 名とし募集期間は 6 月 17 日から 7 月 15 日までとした。さらに、人数は 5 名以下であれば実施しない条件をつけることにした。

募集方法は、例年と同じ、ポスターと授業での呼びかけを行った。この外に、募集内容を説明した後、アンケート用紙を配り、そのアンケートに答えてもらった。

アンケートの内容を以下に示す。

① 中国語学研修に興味がありますか。

☐ ぜひ参加したい ☐ できれば参加したい

☐ 興味はあるが参加はしたくない ☐ 興味

平成 23 年 1 月 14 日受理

[†] 基礎教育研究センター・教授

がない／行きたくない □その他

- ② 中国語学研修に行きたくない／行けない理由は何か。（複数回答可）
- ③ 次に語学研修期間に就いてお尋ねします。
- 1週間程度が適当 □10日程度が適当
- 2週間程度が適当 □3週間程度が適当
- 1ヶ月程度が適当
- ④ その他、語学研修について意見がありましたら、自由にお書き下さい。
- このアンケートでぜひ参加したいと答えた学生のみに、今度は直接話しかけることにした。

3. 事前指導

事前指導は、以下の日程で、3日間行った。内容は発音練習、中国での緊急事態に対応する言い回しやその方法を学習した。

- ① 8月4日（水）15:00～17:00
- ② 8月5日（木）15:00～17:00
- ③ 8月6日（金）16:00～17:00

4. 研修スケジュール

今回の研修は、以下のスケジュールで実施した。

- 〈月日〉 午前／午後
- 〈8-16〉 八戸ー苫小牧(フェリー) (苫小牧泊)
- 〈8-17〉 苫小牧ー新千歳空港ー大連ー瀋陽。
大連から瀋陽までは車で高速道路を移動。
距離 346 キロ、約 4 時間。
- 〈8-18〉 近くのスーパー／市内見学(太原街)
- 〈8-19〉 語学講座①／瀋陽工業大学新校舎見学
- 〈8-20〉 語学講座②／北陵公園（皇太極の墳墓）
- 〈8-21〉 休養／太原街付近の百貨店(本屋)と大学
付近のショッピングモール
- 〈8-22〉 張氏師府／瀋陽空港(桃仙空港)、水餃子屋
- 〈8-23〉 語学講座③／故宮・中街
- 〈8-24〉 語学講座④／東陵公園(ヌルハチの墳墓)
- 〈8-25〉 語学講座⑤／9・18博物館
- 〈8-26〉 語学講座⑥／遼寧省博物館と最終中国語

テスト

- 〈8-27〉 本溪水洞／外食(15:00)、修了証伝達
- 〈8-28〉 語学講座⑦(李先生)／中国の学生との交流会
- 〈8-29〉 五愛市場／荷物整理
- 〈8-30〉 瀋陽→大連(列車)／大連の街を散策
- 〈8-31〉 大連→新千歳→苫小牧→(船中泊)
- 〈9-1〉 →八戸(フェリー)AM4:05 到着

5. 語学の研修内容

実施は、基本的には、(1)午前中が中国語の授業、(2)午後が名所旧跡・博物館・市内見学・自由行動に分かれている。ここでは(1)の授業の部分に関してのみ述べる。(注2)

(1)授業

①学習時間

1時限：午前9時から10時まで

2時限：10時半から11時半まで、
これを7回実施し、最後に学習内容の
テストを1時間実施した。

②授業内容

初級中国語。テキストは瀋陽工業大学が準備したものを使用した。

③教師陣

車先生：日本語は話せないが、英語はできる。

李先生：日本語ができる。最後の一コマだけ特にお願した。

④クラス

受講生は全部で20名弱だった。このクラスは、もともと初級者の3週間コースとして設定されたもので、本校の研修生は、このコースに途中から加わるようになった。このコースの受講生は、本学学生の他にロシア人学生、さらに日本人では英語の上手い学習院大学の学生が一人いた。

⑤中国人学生との交流会。

最後に、中国人学生の交流の時間を持つ

た。15:00～17:00 までの 2 時間。この交流に参加する中国人の学生は、日本語を勉強している学生をお願いした。今回参加してくれた中国人学生は、李先生が指導されている日本語クラスで、中には日本に留学したことのある日本語が上手い人もいたし、また日本語を勉強し始めてまだ余り経っていない初級の学生もいた。

本学学生には、あらかじめ質問を中国語でも言えるように準備してもらった。

6. 研修費用

ここに、今回の研修にかかった全額費用を記しておく。但し、本年は円がとても強く、交換場所や日のよって幾らか交換レートの変動があるが、概ね元への交換は一元が 14 円よりも安く、しかもこれに連動してドルも安かったことにより、ここに上げた金額より若干額が少ないかもしれない。

全額費用：80,098 円（但し 1 ドル＝85 円、1 円＝14 円として計算）

内訳：

- 飛行機代 48,800 円（往復）
- 燃料サーチャージ 5,000 円
- 航空保険料 800 円
- 大連空港使用料 1,200 円
- 札幌空港施設使用料 1,000 円
- 語学研修費：350 ドル（29,750 円、食事、宿泊、見学全て込み）
- 大連-瀋陽汽車賃：82 円（軟座 1,148 円）
- 大連ホテル宿泊費 250 円（3,500 円）
- 八戸-苫小牧フェリー代：7,200 円（往復）
- 苫小牧（ホテル）宿泊代：3,500 円
- 国内バス代 1,200 円程度（往復）
- 大学（基礎教育研究センター共通費）より援助：-23,000 円（一人）

7. 参加学生の感想

今回参加してくれた学生に、帰国後レポートを書いていただいた。それを以下に紹介する。自分の目で実際に見て、直接体験してくるということがどういうことか、といったことがよく分かるのではないかな。

(1) 中国レポート E 科 2 年 村上 優

二週間に及んだ中国短期留学では聞く、書くでしか学べなかった事が短期留学によって五感を使って学んでくる事が出来ました。

例えば簡単な「これはいくらですか?」と言う簡単なフレーズでも国内で勉強するだけでは中々覚えられませんでした。

しかし、中国で欲しい物を見付けそれを買うとする状況になると何度か買い物をする内に頭で考えるより先に口から「多少錢?」という言葉が出るようにまできました。日常会話を実際使って覚える、これは中国に実際に来たからこそ出来たと思います。

知識だけの自分の中国語がいかに通じないか、またどうあれば通じるのか。それをネイティブの沢山の人達の中で身をもって体感出来たのも貴重な体験でした。

勉強を深めるには他の人より勇気を持って一歩踏み出すこと、それが重要であると思います。私は今回の海外研修で外国語がいかに面白いかと言うことを改めて気付かされました。他文化と触れ合うなら言葉もその国独自の微妙なニュアンスを伝えたい、それを伝えるにはその国の言葉で話すのが 1 番であると思います。

私は今よりもっと沢山の知識を身につけ再び中国に行きたいと思います。

次回は今回通訳無しでは出来なかった他文化を持つ人達と詳しく意見交換をしてもっと中国の事を知りたいです。

(2) 実際の中国への訪問 B 科 3 年 玉田 永

最近ニュースやインターネットで中国のことがよく放送されています。大体は明るいニュースではなく尖閣諸島問題や反日デモ、急激に経済成長を遂げる上での環境問題など中国の印象

を悪くするものばかり。そういう自分もそんなニュースに強く影響されていた1人でした。

頭の中では広い中国の一部が問題を起しているのであって、中国全土が一丸となって問題を起しているわけではないと分かっているけど、良い印象はもてませんでした。そんな中、なぜ私がこの研修に参加しようと思ったのか。きっかけは、中国を題材としたある小説を読んだことでした。その小説の舞台がちょうど中国で、この本にはひと昔前の日本と変わらぬ平和な日常や中国の歴史的美しさが書かれていて、私がこれまで思い続けていたイメージを払拭するものだったのです。

中国で初めに直面した最大の問題は言葉です。日本語に囲まれて暮らしていたために、中国語の飛び交う環境に戸惑いを強く感じさせられました。テレビの番組や本、標識など、中でも一番辛かったのはスーパーの買い物でした。お金を払うだけでいいと思っていたのが間違いで、話しかけられてもまったく分からず困惑し、仕舞いには店員に怒られてしまいました。また、現地の学生と交流する機会があり、話す内容も事前に準備し練習も繰り返したはずなのに少ししか聞き取れず「一体2年間何を学んできたんだ」と本当に落ち込みました。

次に直面した問題は水です。水を買って飲む習慣のない私にとって新鮮な体験でしたが、歯を磨くときにも飲料水を使うのはさすがに気が引けました。

最後の問題は場所に関係がありました。満州と言えば日中関係で歴史的に濃い場所であり、様々な施設や展示物が多くありました。教科書に載ることのない生々しい写真や目を背けたくなるような展示物を見て「中国人が怒るのも尤もだ」といつしか反省していました。

日本とは違った文化、良い意味で驚くことが多くありました。例えば、中国といえばやっぱり中華料理。さすがは本場というだけあって、どれもこれも美味しいものばかり。特に私が気に入っていたのがキュウリと卵の炒め物で、歯ごたえや塩加減が本当に絶妙でした。勿論、中

国でしか味わえない蚕の蛹なども食べてきました。

実際の中国は私が想像していたよりも遥かに綺麗で、八戸の建物の二倍はあるビル群が立ち並び、多くの高級車が行きかう都市でした。また、反日デモや喧嘩なんて一切なく、逆に買い物で親切にされたりと昔のイメージとは矛盾することだらけでした。

まさに百聞は一見に如かず。情報がすぐに手に入る一方で誤った情報も蔓延するこの世の中、情報は慎重に受け取らなければならない。私がこの研修から学んだことです。

(3)中国レポート 1科3年 檜舘 和樹

語学研修に参加した理由は、海外に行ってみたかった、美味しい料理を食べたかったなどありますが、一番の理由は大学に入ってから今まで中国語を勉強してきたので自分の力がどれくらい付いたのか試す良い機会だと思ったからです。

初めて中国を見た感想はあまり日本の都市と変わらず、私のイメージとは大きく違い賑やかなところでした。ただ、道路だけは怖かったです。人は、信号が赤でも車を避けながら当然のように渡り、車も人が渡ってもクラクションを鳴らすだけで止ろうとしません。このようなところで二週間も過ごすのは大変だな、と初めは思いました。

私の最初の買い物は、アイスクリームです。上手く伝わらなかったようでジェスチャーで何とか買い物をすることが出来ました。嬉しかったです。

授業はロシア人とも一緒に受けました。ロシア人は皆発音が上手かったです。漢字もちゃんと書いており凄いなと思いました。私は三年生なので今回習ったようなことを本学の授業でやっており、復習と思って講義を聴いていました。しかし中国人の先生は日本語を話せなかったの、英語を聞いて理解することになり、難しかったです。

中国の学生達との交流もしました。今まで習

ってきた中国語の成果を試す絶好の機会でしたが、上手く行きませんでした。中国の学生達は皆日本語が上手く、私たちが中国語で話さなくとも日本語で違和感なく会話できたので驚きました。

また、小旅行で行った本溪水洞も記憶に残っています。岩手にある鍾乳洞みたいのところでしたが、こちらの方が大きくて全部見るのには時間がたっぷりかかりました。歩くところと船に乗るところがあり、歩いて見学するところはソコまで長くはありませんでしたが、ボートに乗り見学するところが長かったです。カップを着てボートにりましたが、それでも水滴が凄く、びしょぬれになりました。

私はこの二週間とても楽しい経験をしてきました。自分の中国語のレベルもまだまだだということも分かりました。来年も行きたいですが就職活動などもあり行けないかもしれません。機会があれば、もう一度と思います。

(4) 中国語学研修に参加して

八戸大学 ビジネス学部ビジネス学科2年

天野 祐子

中国は私にとって未知の国で、周囲の中国へ渡航歴のある人達から聞いた少ない情報だけを持って、中国へ向かいました。渡辺先生を含めた8人の旅は、久しぶりのなつかしい修学旅行のようで、それでいて更にそれより何倍も楽しくて、夢のようでした。1日目から女子うちとけて、最後には男子とも性別を感じない家族のように過ごしました。私のいままで経験したことのない17日間でした。

中国の朝は早いです。寮から歩いて15分のスーパーは、平日でも朝7時半開店で、開店前には多くの人が店の前に並んでいました。朝のバスには人が寿司詰めで、車もバイクもたくさん行かっています。夕方になると広い歩道に露店が並んで、昼間よりもにぎやかになります。飲食店の前にはテーブルとイスがあり、食事をしたりビールを飲んだり、ゲームをしたり、仲間であそんでいました。それでも日本のように酔っ

てケンカをしている人や、寝ている人はいませんでしたし、夜にパトカーのサイレンを聞くこともありませんでした。治安はとても良かったです。早朝から夜までずっと人が多く、街を歩いていて不安になることなど一度もありませんでした。私がもっていたイメージと相反して、滞在中は浮浪者にもガラの悪い人にも会いませんでした。

滞在中に大型ショッピングモールがオープンして、とてもにぎやかでした。野外のステージでイベントをしていたり、ビルの壁面の流れるレインボーのネオンに目がくぎづけになりました。モール内には、「SUBWAY」や「STARBUCKS COFFEE」など、アメリカのチェーン店がテナントではいっており、青森県ではまだ目新しいお店なので、とても驚きました。このような外資の進出規模にも、ビルの高さにも驚きました。

一番不安だった道路の横断は、はじめのうち、歩行者に突進してくる車が怖くて、誰かの後ろにくっついて渡っていましたが、旅の後半には、堂々と渡れるようになりました。二番に不安だったトイレも各所にあり、99%が水洗トイレで、（トラブルはありましたが）不便はありませんでした。驚いたのは、中国でもエコバックを使っていて、レジ袋が有料だったこと。ペットボトルやビンなどゴミの分別がきちんとされていて、意外でした。この点ではアメリカよりも進んでいるなと思いました。

今回の語学研修では、私が思い描いていたよりも、たくさんの中国人と交流することは出来ませんでした。私の語学力が低すぎたために、最後まで中国人と中国語でコミュニケーションをとることはできず、英語で会話するだけで終わりました。しかし、次回中国へ行く際には、語学力を今の100倍高めて、中国人と中国語でコミュニケーションをとりたいと思います。

こんな少ない交流のなかでも、私が中国人に対して感じた印象は、女性が凄くしっかりしているということです。デパートやスーパーでは、1つのコーナーに3人以上のスタッフが立って商品を勧めていて、全員女性でした。毎日あち

こちらのレストランで食事をしましたが、働いている人は8割女性でした。私達が中国語を教わった大学の先生も女性でした。チャオ先生は背が高くすらっとしていて、色が白く、目がぱっちりしていて、アメリカ人のように大きなジェスチャーをしながら話をする女性でした。食事を注文する時はスピーディーで、トラブルがあったときには正面から抗議をして、解決すると笑顔で帰ってきました。そんな「デキル」先生に憧れ、彼女の様な女性になりたいと思いました。

ひろい広い中国の遼寧省のほんの一部を見ただけです。違う場所へ行けば、全く違う中国があるでしょう。現在の中国は変化が目まぐるしいので、半年後に同じ場所を訪ねても違うかもしれません。そうだとすると、わたしが今回自分の目で見た中国は、朝も夜もビルも女性も大学生も、とても輝いていました。この語学研修は、わたしの人生のなかで輝く17日間でした。

(5)中国研修を終えて M科1年 玉熊 真士

私たちは中国の瀋陽で研修をしてきました。そこでは普段経験することの出来ない貴重な時間を過ごしてきました。

研修中で一番苦労したのが言葉でした。

私は中国語を3ヶ月しか習っていないので、赤ちゃん並みの語彙力しかありません。最初は、わからない言葉、なれない環境に戸惑い、何もできずにいました。

伝えたいのに伝えることができない、相手が何を伝えたいかが汲み取れない、そんな状況がずっと続きました。でも、日数がたつにつれ決まった共通のパターンが見えてきました。

そこで思い切って食事ではメニューの料理に指をさして伝えたり、買い物では、周りはどのようにして買っているのかと注意深く観察して、そのまねをしました。

私はそのときに今までは言葉ですべてを理解しようとしていることがわかりました。しだいに言葉だけではなく、感じることによって理解できることに気づきました。

言葉を超えて「感じる」ということにより相手を感じ取る、感じ取ってもらう。言葉とはただその補助でありツールである、必要なのは伝えようとするその積極性にあるのだとわかりました。自分が積極的になることで、相手もこちらに向いてきてもらえ、相手も積極的になってくれる。これが実践で理解できました。これは人生全般に共通していると実感しました。

中国はいつでもどこでも活力に満ちていたことがとても印象深いです。どこにいても人が必ずいます。特に毎日の夜の街中の露店や朝の公園のランニングや太極拳、お祭りやイベントがあるのではないかと言うぐらいに賑わいがあり、人でごったがえしていました。人が集まることにより活力が生まれるのだと肌で感じました。

また、「人々がもっとよくなろう、良くしよう」とする前向きさも感じました。この前向きさはこれからもっと発展する中国の原動力であるのだと思います。その力強さに驚かされました。

そのほかにも英語と言う共通語の重要さや文化の違いから日本独特の考え方が見えたり、海外というグローバルな体験をした部分もたくさんありました。

次はもっと中国の文化に触れてみたいと思いました。

(6)中国語学研修 K科1年 吉田尚未

初めて海外に行きました。その国が中国です。きっかけはただ面白そうだという軽い気持ちで参加しました。両親も行ってみたらどうかと押してくれたことも参加の理由です。行くための準備や中国語の補講を受けて、8月16日について出発しました。

実際に中国に足を踏み入れたのは17日です。初めてだらけで驚き通しでした。私が一番衝撃を受けたのはトイレトペーパーが水に溶けないことでした。ちゃんと個室にあるゴミ箱に入れます。初めて入ったとき正直、戸惑ってしまいました。さらに驚いたのが、車がどんどん走っ

てくる道路を普通に渡って行く人がいたことです。さらに、狭い道路で混んでいると広い歩道を走っていく車も何台か目撃しました。最初はとても怖かったのですが研修の後半には慣れることができました。

研修ではほとんどの日が、午前授業、午後は名所に見学、或いは自由行動などでした。

午前の授業では机に見つけた落書きに親近感を覚えつつ、ロシアからの留学生と一緒に中国語を学びました。渡された教科書には当然、漢字しかありません。分からない部分はなんとか英語やジェスチャーで教えてもらいました。

午後には沈陽周辺で中国の歴史に深く関わり合いのある場所に行きました。

九・一八博物館は当時の写真や服などが展示されていて、実際にこんなことが起こったのだと思うと悲しくなります。今も日中の間でいろんな問題が起きているので、これから解決されていけばと願います。本溪水洞は落ちてくる水滴が冷たいですが、ライトアップされていてとてもきれいでした。遼寧省博物館では、昔の巻物の絵を写生している人がいたのが心に残りました。ちなみに遼寧省博物館は中国の歴史が時代ごとに展示してあるのですが、そのことに気付かず、時代を遡って見ていたのは、いい私の思い出です。

現地での買い物はほぼ全て先生に頼っていました。しかし、先生もずっと傍にいないわけではないので「いくらですか。」と「（値段が）高い！」は必然的に覚えられました。「高い」はあまり使う機会がありませんでしたが、「いくらですか。」は結構使いました。数字はあやふやなところもありましたが、店員さんが電卓で教えてくれました。電卓は便利です。

28日に中国人学生との交流がありました。3グループに分かれて時間で区切って、時間が来たらそれぞれ交替する形になりました。私のいたグループには先生が加わっていたのでとても心強かったです。中国の学生さんもさまざまでした。まだ日本語をそんなに覚えていない人もいれば、すぐ上手な人もいました。私は中国語をあま

り話せないので緊張しましたが、とても楽しかったです。

軽い気持ちで参加した語学研修でしたが、本当に参加して良かったと思います。約2週間、中国はとても広いのでほんの一部でしたが、その習慣や文化に直に触れることができました。現地での食事はほとんど外食でした。本場の中華料理はとても美味しかったです。

今よりもう少し中国語を理解し話せるようになれば、きっと、もっと中国のことについて解ることが出来ると思っています。だから、私はこれからも中国語を学んでいきたいです。

（7）中国語研修報告 B科1年 中垣勇太

中学、高校と外国語として、英語を学んできました。その英語の先生がよく「授業で受ける外国語と現地で体験する外国語とは違う」と言っていて、チャンスがあれば是非外国を体験してみたいと思っていました。

今回、絶好のチャンスだと思い中国語学研修に参加したのです。

実際に受けてみて、学校での授業と現地とではかなり勝手が違いました。当たり前なのですが、現地の人たちは日本語がわかりません。このことをわかっていたつもりでしたが、いざ行ってみると大変でした。買い物ひとつするにも一苦労でした。

現地で受けた授業も、先生が日本語を話せなかったのも、中国語と英語で授業をする形態だったので、苦労しました。

中国での二週間は、自分にとってとても大きな経験になりました。

今後は中国と関わるが多くなると思うので、これからも中国語を学んでいきたいと思います。

8. おわりに

最後に、今回の語学研修の問題点、今後の在り方等を、ここに書いて置くことにします。

- ① まず募集である。瀋陽工業大学と交渉し、語学研修費を今年は 350 ドルに下げてもらい、かつ大学の援助も頂き 8 万円 5 千円以下にした。だがそれでも、まだ「高い」という学生が多数いて、予想したほど学生は集まってこなかった。また、3 年生、4 年生にも声をかけた。ところが、この学年の学生は夏休みになってもまだ忙しく、行きたいのだけれど、日程的に語学研修に参加できないと断る学生がかなりいた。語学研修は、学生の国際的視野を広げさせる絶好の機会であるのだから、もっと語学研修を優先させるといったことも含め、もっと全学的に支援、バックアップをする本学の体制が必要だと思う。
- ② 飛行機のチケットの料金も、今年は団体扱いであり、安く上がると思っていた。ところが、中国の「〇〇航空」が直前になり、団体の席は全部埋まっているので、個人の席しか残ってないと言って、個人席料金を要求してきた。旅行会社に交渉してもらったが、結局、団体料金に 3000 円上乗せすることで決着せざるを得なかった。これまでは新千歳空港から行くルートが最も安く便利だと思っていたが、今後は、他の航空会社、或いはルートも含めて再考する必要があるのかもしれない。
- ③ この「〇〇航空」は 7 月半ばに突然ダイヤル改正を行い、瀋陽直通便を臨時で運行する通知を送ってきた。瀋陽直行便ならば、あらゆる面で便利だと思い、早速これに飛びついた。だが、何故か理由は不明だが、この飛行機の座席があつという間になくなってしまい、それでも、もしかしたらと、ギリギリまで粘ったが、結局手に入れることはできなかった。このために、書類の作成、連絡が遅れ、関係者に多大な迷惑をかけてしまった。
- ④ 経費面では、今年に限って言えば、想像以上の円高であり、中国への換金の際などに、この恩恵をかなり受けることができた。
- ⑤ 瀋陽工業大学の語学研修担当機関が「国際合作処」から「国際教育学院」に変わった。最初は「国際合作処」と交渉していたのだが、外国からの留学生を担当しているのは「国際教育学院」だからそちらの方と交渉してくれと、7 月末ぐらいに「国際合作処」の「処長」から連絡があった。直前だったので少し面食らったが、ただし、現在の「学院長」は「合作処」の元「処長」だった人で、且つ知り合いでもあったこともあり、却ってやりやすかった。
- ⑥ 中国大連到着時に、瀋陽工業大学は、自校の車を出して、大連まで迎えに来てくれた。初日目の大連から瀋陽までの移動が、列車の切符の入手困難が予想され頭の痛いことだっただけに、とてもうれしかった。帰日も、任学院長を初め関係者が、切符の手配、並びにホテルの手配など行き届いた配慮をしてくれた。

謝辞

今回、瀋陽工業大学の任英磊院長を初めとする国際教育学院のスタッフの先生に様々な面でお世話になった。また、思いがけず、瀋陽工業大学の李学長の好意で学生のために宴席を設けていただいた。さらに、本学の常時の連絡係として山本忠先生にも大変お世話になった。このような多くの関係者の助けがあつて、この語学研修を無事実施することができたと思っている。ここに謝意を表しておきたい。

【注】

- (1) 拙論「2004 年度中国語学研修報告」(八戸工業大学紀要 第 24 巻 pp.301-310)、拙論「2006 年中国語学研修報告」(八戸工業大学紀要 第 26 巻 pp.205-217)。ここに、研修中の見学場所については説明がある。
- (2) 同上参照。名所旧跡に関しては以「同上」で前述べたことがある。

(1) 授業風景

①車先生の授業



②李先生の授業



(2) 中国人学生との交流会



(3) 名所旧跡・博物館・市内見学・自由行動など

①太原街：瀋陽市一番の繁華街



②瀋陽工業大学新キャンパス(図書館)



③李学長主催のパーティー



④北陵公園（清朝第2代皇帝皇帝の墳墓）



⑤瀋陽で会った「ドラえもん」



⑥瀋陽にある日本式回転寿司



⑦張氏帥府（張作霖、張学良の私邸兼事務所）



⑧中街（古い町並みを保存している通り）



⑨故宮（清朝初期の皇帝の宮殿）



⑩東陵公園（清朝初代皇帝の墳墓）



⑪9・18(満州事変)博物館



⑫小旅行（本溪鍾乳洞見学）

